

食品とライフサイエンス

FOOD ISSUES ON LIFE SCIENCES

No. 16

■ 特 集

ILSI活動委員会のしおり

—— 創立 5 周年を迎えて ——

《 目 次 》

ごあいさつ(委員長)	3
ILSI活動委員会について	5
組 織	7
組 織 図	8
事 業	9
関連組織	15
事業年表	16
会員名簿	18
委員名簿	19
ワーキング・グループ名簿	21

ILSI 活動委員会

役員，アドバイザー，幹事名簿

委 員 長

小 原 哲二郎 東京教育大学 名誉教授・東京農業大学 客員教授

副 委 員 長

椎 名 格 日本コカ・コーラ株式会社 取締役業務執行副社長
角 田 俊直 味の素株式会社 取締役
吉 田 文彦 キッコーマン株式会社 常務取締役研究開発本部長

監 事

印 藤 元一 高砂香料工業株式会社 常務取締役
土 屋 文安 明治乳業株式会社 中央研究所長

ア ド バ イ ザ ー

栗飯原 景昭 国立予防衛生研究所 食品衛生部長
石 田 朗 東京穀物商品取引所 理事長
池 田 正範 財団法人食品産業センター 理事長

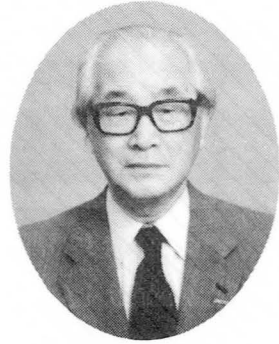
幹 事

桐 村 二郎 味の素株式会社 理事
那須野 精一 キッコーマン株式会社 生物科学研究所長
福 富 文武 日本コカ・コーラ株式会社 学術調査統括部長
清 水 淳一 三井物産株式会社 糖質発酵部
難 波 靖 尚 財団法人食品産業センター 理事
荒 井 珪 財団法人食品産業センター 技術開発部長

ご あ い さ つ

I L S I 活動委員会

委員長 小 原 哲二郎



I L S I 活動委員会 5 周年を迎えるに当たり、一言ごあいさつを述べさせていただきます。

本活動委員会は、1981年（昭和56年）4月に第一回 I L S I 栄養専門家委員会が、東京で開催されたことを契機に急速に結成の機運が高まり、その結果有志の13法人が集まり、5年前の同年6月9日に発起人会が開かれ、「I L S I 等活動検討委員会」として正式に発足いたしましたことは、未だ記憶に新しいところでございます。

何事もそうでございますが、設立当初の苦勞と混乱は、仲々大変なことであった訳ですが、一同が志を同じくしてお互いに協力しあったことと、その後本委員会の趣旨に賛同いただけた方々に次々とご加入いただき、今日見るように38会員にまで発展いたしましたことは、一重に会員諸氏のご尽力によるものと感謝にたえません。

この5年の間、各種の行事はもとより、当委員会活動として最も特色とするワーキング・グループ活動についても、現在まで採り上げた課題は既に8課題を数えております。その成果についての総合した報告書もとりまとめております。このような、食品に対して科学的な観点からの第3者的考察は各方面で評価されており、また当委員会の活動につきましては国内はもとより国外においても、次第に声価を得つつあるところです。

今後の活動の1つとして日本国際生命科学協会との合同があります。ほぼ同時期に発足した日本国際生命科学協会は、基金組織的な役割があり、当委員会ワーキング・グループ活動について、当初から資金的援助をいただいております。その後において、その組織化が整ってくるにつれ、企画した国際シンポジウムの開催等の行事について、当活動委員会の活動ならびに協力を必要とする

度合が強くなって参っております。これらの事情から、この両組織を合同してはどうかということについて、委員の諒承の下にその条件等の詳細について、別途に組織準備委員会を設定して検討をとりすすめております。

いま一つの今後の課題として法人化が挙げられます。今後、諸事業の成果が蓄積されてくるにつれ、官庁関係やその他の法人等に対し当委員会の存在を認知させ、対等な関係を保っていくためには、法人化することが大変重要なことであるといえましょう。この推進については、事務折衝にもまた資金的にも大変な努力と負担がかかってくることは存じますが、食品ならびに食品関連業界の発展のためには当委員会が率先して乗り越えなければならないステップの一つであるをご理解いただきたく、今後はご賛同を得ながらその方向に向けてとりすすめて参りたいものと考えております。

以上、今後とも国内外における当活動委員会の地位の向上と活動の拡大を目指して、諸氏の今一層のご理解とご協力の下に産学官の中間的接合点としての立場をとりながら、活動を続けていきたいと存じますので、なお一層のご賛同とご協力をお願い申し上げる次第です。

昭和61年9月

I L S I 活動委員会について

食品は、元来人類の健康を維持し、正常な活動を行う源泉であることは言うまでもないことです。したがって、食品は本質的に何等人類に対してその健康を害するものが含まれていないのが、当然のことと言えます。

しかし、一方では食品素材としての自然の動植物には、必ずしも有害物質が含まれていないという保証はなく、現実にはむしろその逆に何らかの有害物質が、健康に影響のない程度含まれていることは、常識ともなっています。人類における食生活の知恵はそれら有害物質を避けて、これを食品とする方法を見出だしてきたことにあり、このような食品の対象範囲の増加が、他生物に比し人類が発展してきた主要な要因の一つであるといわれています。さらに近時に至り、食生活の豊かさと調理の便利性が求められており、このため経済的にその要求を満たすための加工食品の増加があります。

このように、多種かつ豊富な食品についての安全性は消費者のみならず、それを供給する食品業界にとっても、同様あるいはそれ以上に重要なことであり、ことにその保証について十分な責任があることは当然のことといえましょう。このような食品の安全性については、既に1978年に米国においてI L S I (International Life Sciences Institute)が、食品企業の賛同の下に設立されています。この団体は食品もしくはそれに含まれる化学物質の安全性の科学的評価を行うため、生命科学の分野の研究活動を支援する第三者としての機関として、科学者や各国政府機関から独自の立場としての信頼を得ており、食品にかかわる事柄の安全性に対して科学を基礎とした評価の情報を提供し、人類の幸福に貢献することを目的としております。

このような組織が、わが国においても必要であるかどうかについて、関係者間で種々話し合いが持たれた結果、世界の趨勢からしても、食品の安全性について、科学的に立証された正しい評価を行うことは必要であるとの結論にいたり、食品業界の有志者が集まり、1981年6月9日に「I L S I 等活動検討委員会」の発足を見るに至りました。この名称は、その後委員会の内容の充実に伴い、5年後の1986年2月27日に「I L S I 活動委員会」と改称され、今日に至っております。

以後現在まで活動を続けておりますが、その主な活動として、それぞれの主

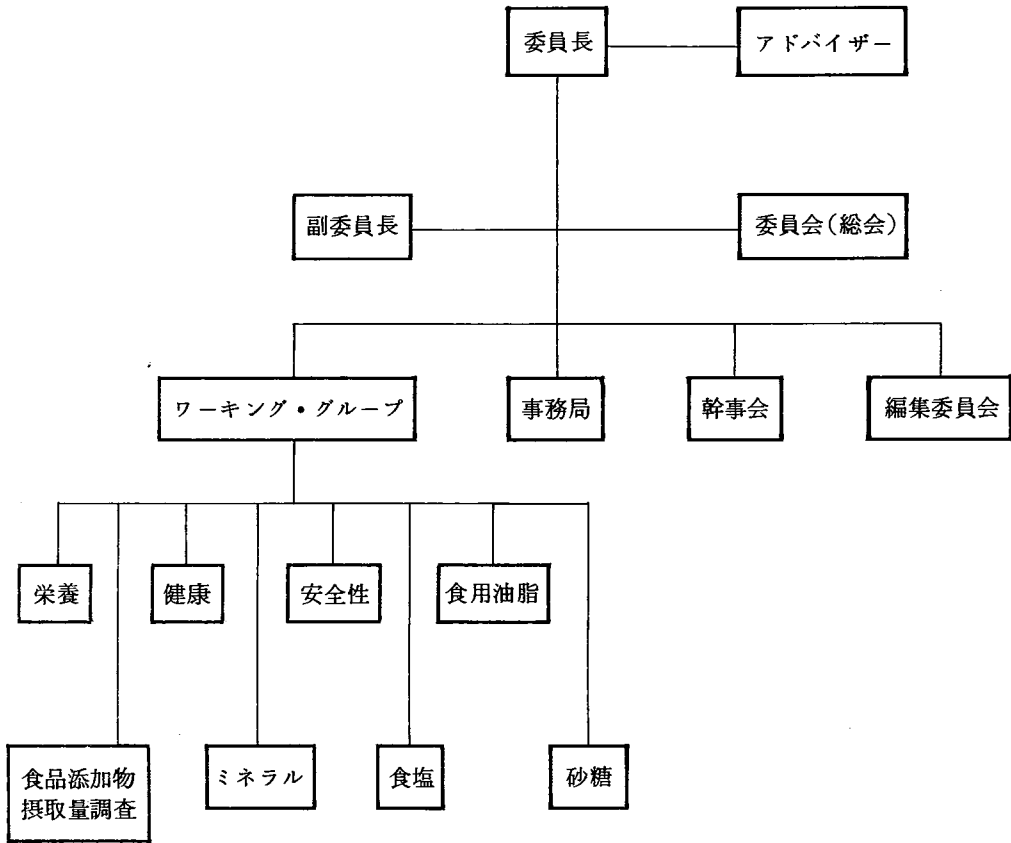
題によるワーキング・グループ活動があり、その成果は次々に報告書として印刷され、科学的に裏付けられた食品に対する正しい情報を、国民に広報することとしております。現在までの会員は38法人を数えておりますが、当委員会での討議については、あくまでも個々の企業の立場を離れた是々非々の客観的な安全性評価と検討が主眼となっております。

このように、時代に適合した食品と健康あるいは安全性に関する情報を蓄積し、必要に応じて提供していくこととしており、今後も国際的にも I L S I 本部ほかとの連携をとりつつ食品の安全性についての信頼を保つことを目的に活動を続けて参ります。

組 織

- 1 (会員) ILSI活動委員会(以下本会)は、本会の趣旨に賛同する者よりなる会員により構成されています。
- 2 本会は委員会(総会)によって運営されます。
- 3 (委員会) 会員各社より各1名の委員が委員会に出席します。通常、委員会は3ヶ月ごとに開催されます。
- 4 (役員) 本会に委員長(1名), 副委員長(若干名), 監事(若干名)が選出されています。
- 5 (アドバイザー) 学識者にアドバイザーとして指導を願っております。
- 6 本会の実務執行のため、幹事会ならびに会誌等編集委員会が設置されています。
- 7 本会は会誌「食品とライフサイエンス」を年4回発行し、会員に配布します。その他会員に有益と思われる情報の随時配布を行っています。
- 8 (ワーキング・グループ) 本会にワーキング・グループ(WG)を設置します。これは、食品、食品添加物等の健康と安全性に関する科学的データを収集選択し、とりまとめる作業を行っています。現在活動しているWGは「栄養」、「健康」、「食品の安全性」、「食用油脂の栄養と安全性」の4WGです。会員は原則として、いずれか1つ以上のWGに参加すること、となっております。これらの調査活動結果はとりまとめて印刷物とし、会員あて配布するほか、行政や一般企業に情報として提供しております。

組 織 図



事 業

会員数の推移

昭和56年度設立時の13会員が現在では38会員に増加しています。

年 度	56	57	58	59	60	61
会 員 数	13	22	30	32	33	33

61年は現在

事業収入実績の推移

年 度	一般会費等(千円)	特別事業費(千円)	合 計(千円)
56	1,353	300	1,653
57	1,550	2,000	3,550
58	1,932	2,500	4,432
59	2,351	1,700	4,051
60	1,304	0	1,304
61(見込)	3,800	1,000	4,800

(注) 56～59年度は7～6月

60年度は6～12月(決算期変更のため一般会費収入なし)

61年度以降は1～12月

講演会の開催

ライフサイエンスに関連したテーマについて講演会を開催しております。

年度	開催月日	場 所	主 題	講 演 者	備 考
56	56. 7.13	コックドール サミット	最近における癌研究の動 向 第1回ILSI栄養専門 家委員会会議に出席して 骨の代謝とミネラル	国立がんセンター 研究所 副所長 河内 卓 東北大学農学部 教授 木村 修一 国立栄養研究所 応用食品部長 岩尾 裕之	設立記念講演会
57	57. 7.13	国際文化会館	第3回ILSI栄養専門 家委員会会議に出席して わが国における塩の需要 状況	東北大学農学部 教授 木村 修一 日本専売公社 塩事業本部調査役 岡 光蔵	
	58. 1.27	食品産業セン ター	日本の精糖工業の現状と 問題点	精糖工業会研究所 所長 嶋田 稔	
	58. 4.21	国際文化会館	ILSIの現状	ILSI会長 A. マラスピーナ	
58	58. 7. 5	食品産業セン ター	最近における安全性の考 え方	国立予防衛生研究 所 食品衛生部長 栗飯原 景昭	
	59. 2.24	食品産業セン ター	WG報告「骨代謝とミネ ラル」の概要について	「骨代謝とミネラ ル」WG	
59	59.11.19 ~20	東海大学校友 会館	安全性評価に関する国際 シンポジウム (ILSI Japan 3周年記念行 事)		ILSI Japan 主催 活動委員会は 全面的に協力
60	60. 7.23	国際文化会館	ILSI春季総会・理事 会出席報告	ILSI役員 味の素㈱ 杉田 芳久	
	60.11.26	葵 会 館	最近の食品の安全性に関 する米国提案の共同検討 項目の内容	国立予防衛生研究 所 食品衛生部長 栗飯原 景昭	委員会において 説明

	61. 2.27	虎の門パストラル	バイオテクノロジーの将来と各国の現状	三菱化成生命科学研究所 情報開発室長 坂口 健二
61	61. 6. 2	虎の門パストラル	食用油脂成分の栄養性と安全性について	お茶の水女子大学生活環境研究センター 教授 福場 博保

会誌の発行

情報の伝達，会員への連絡等の目的で，「食品とライフサイエンス（略称：食品とLS）」を1981年（昭56）11.15より継続して年4回発行しております。なお，本会誌名は昭和60年7月29日付けにて商標登録（商公昭59-096880）がされています。

年度	特 集	著 者	頁	発行日
56	ILSI等活動検討委員会の発足に当たって	ILSI等活動検討委員会 委員長 教授 小原 哲二郎	1	1981.11.15
	第1回ILSI栄養専門家委員会 会議に出席して 骨の代謝とミネラル	東北大学農学部 教授 木村 修一 国立栄養研究所 応用食品部長 岩尾 裕之	2	1982. 2.15
	最近における癌研究の動向	国立がんセンター研究所 副所長 河内 卓	3	1982. 5.15
	食品添加物に対する最近の考え方	麻布大学環境保健学部 教授 小島 康平		
	食塩の摂取について	東北大学農学部 教授 木村 修一		
	ミネラルの代謝	東京農業大学農学部 教授 五島 孜郎		
	わが国における塩の需要供給の現状について	日本専売公社塩事業本部 調査役 岡 光蔵	4	1982. 9.15
	1982年ILSI年次大会に出席して	ILSI Japan 幹事 日本コカ・コーラ㈱ 福富 文武	5	1983. 2.15

57	ILSI日本グループ会議 砂糖をめぐる健康の問題 ILSIの概況	ILSI Japan 幹事 日本コカ・コーラ(株) 福 富 文 武 精糖工業会研究所長 鴨 田 稔 ILSI会長 A. マラスピーナ	6	1983. 6.15
58	WG「食品添加物の摂取量調査」 報告書の概要 WG「食塩」報告書の概要 WG「骨代謝とミネラル」報告書 の概要		7	1983. 9.15
59	WG「砂糖」報告書の概要 「健康食品」日本と米国、情況と 見方		8 9	1984. 1.15 1984. 4.15
	ILSI安全性評価に関する国際 シンポジウム	筑波大学教授，社会医学系学 系長 藤 原 喜久夫 Director, Cnadian Centre for Toxicology, University of Guelph, Dr. Ian C. Munro Director, Institute CIVO-Toxicology and Nutrition TNO Dr. R. J. J. Hermus Director, Max Von Pettenkofer Institute, Bundesgesundheitsant Dr.A.G.Hildebrandt Senior Principal Medical Officer, Department of Health and Social Security of the U.K. Dr. Barbara MacGibbon	10 11	1984.10.15 1985. 1.15 12 1985.11.15

ワーキング・グループ活動

食品あるいは食品に含有されている物質の安全性および健全性について、消費者の健康と栄養に資するよう、第三者的立場から各会員が共同して検討を行い、中立かつ科学的な視点から正しい評価を求める活動を行っております。

これらの成果は既に報告書として、一般に配布されています。

ワーキング・グループ	委員会承認日	活動期間
食品添加物摂取量調査	57. 1. 20	57. 3. 26～58. 5. 16
骨代謝とミネラル	57. 1. 20	57. 3. 12～59. 2. 9
食塩	57. 1. 20	57. 4. 6～59. 1. 20
砂糖	57. 4. 21	58. 3. 18～59. 6. 26
栄養	60. 3. 19	60. 11. 26～
健康	60. 3. 19	60. 7. 15～
食品の安全性	60. 3. 19	60. 11. 22～
食用油脂の栄養と安全性	61. 2. 27	61. 5. 22～

ワーキング・グループの成果

調査検討結果をグループごとにとりまとめて、委員長あて報告を行っております。また、成果を総合的にとりまとめた、「I L S I等活動検討委員会報告第一集」を印刷し、会員、関連公設試験場所、関係行政部局あて配布を行いました。

I L S I等活動検討委員会報告第一集 昭和60年6月25日発行 385ページ

(内容)

食品添加物の摂取量調査と問題点

子供の骨折についての一考察

食生活における食塩のあり方—栄養バランスと食塩摂取

砂糖と健康

関 連 組 織

日本国際生命科学協会（略称 ILSI Japan）は ILSI（International Life Sciences Institute, 略称 ILSI）の日本支部として、国際的に関心の持たれている食品に関する健康および安全性に関する問題について資料の配布、情報の伝達、講演会・シンポジウムの開催、研究調査への補助等の諸事業を行っています。

日本国際生命科学協会

会長 小 原 哲二郎

〒164 東京都中野区本町四丁目19番13号 岩崎物産ビル
（財）日本油脂検査協会内

事業年表

年度	年	月 日	I L S I 活動委員会	関連事業
	56	3. 11 4. 10 4. 22 5. 7	第1回準備会 第2回準備会 第3回準備会	第1回ILSI栄養専門家委員会
56	57	6. 9 7. 13 11. 15 1. 20 3. 12 3. 26 4. 6	第4回準備会および発起人会 ILSI等活動検討委員会が正式に発足 ILSI等活動検討委員会発会記念講演会および記念レセプション 「食品とライフサイエンス」№1発行 WG「骨代謝とミネラル」, 「食品添加物摂取量調査」, 「食塩」の3WG編成承認 WG「骨代謝とミネラル」活動開始 WG「食品添加物摂取量調査」活動開始 WG「食塩」活動開始	
57	58	7. 13 1. 27 3. 18 4. 21	設立1周年記念講演会, 懇親会 講演会 WG「砂糖」活動開始 ILSI会長A. マラスピーナ来日, 講演会, 懇親会	
58	59	7. - 7. 5 11. 15 2. - 2. 24 4. -	ワーキング・グループ報告書 №1 食品添加物の摂取量調査と問題点印刷 講演会 ワーキング・グループ報告書 №2 子供の骨折についての一考察 印刷 講演会 ワーキング・グループ報告書 №3	桐村幹事, ILSI Board of Members Meetingに出席

		6. -	食生活における食塩のあり方—栄養パ ランスと食塩摂取— 印刷 ワーキング・グループ報告書 №1 追加 資料 C C F A 食品添加物委員会 食品添加物一日摂取量WG資料 印刷	
59	60	11. 19 ~ 20 2. - 3. 19 6. 25	ワーキング・グループ報告書 №4 砂糖と健康 印刷 WG「栄養」, 「健康」, 「食品の安全 性」3WG 編成承認 「ILSI等活動検討委員会報告第一集」 印刷	安全性評価に関する国際 シンポジウム (I L S I 主催, I L S I Japan 実行)
60		7. 15 7. 23 11. 22 11. 26 11. 26	WG「健康」活動開始 講演会 WG「食品の安全性」活動開始 講演会 WG「栄養」活動開始	
61		2. 27 2. 27 5. 22 6. 2 8. 7 10. 19 22 11. 13	I L S I 活動委員会と改称 講演会 WG「食用油脂の栄養と安全性」の編成承認 WG「食用油脂の栄養と安全性」活動開 始 講演会 I L S I Japan・I L S I 活動委員会 組織準備委員会発足 I L S I 主催「食事と健康国際シンポジ ウム」ミッション派遣 (予定) I L S I Japan・I L S I 活動委員会 5周年記念行事 (予定)	

会 員 名 簿

(アイウエオ順)

- 味の素株式会社
味の素ゼネラルフーズ株式会社
- エーザイ株式会社
カルピス食品工業株式会社
- キッコーマン株式会社
協和醸酵工業株式会社
- キリンビール株式会社
クノール食品株式会社
- 三栄化学工業株式会社
サンスター株式会社
昭和産業株式会社
- 白鳥製薬株式会社
- 仙波糖化工業株式会社
- 高砂香料工業株式会社
武田薬品工業株式会社
南海果工株式会社
株式会社ニチレイ
日清製油株式会社
- 日本ケロッグ株式会社
- 日本コカ・コーラ株式会社
日本シービー・シー株式会社
日本ペプシコ株式会社
- 日本ロッシュ株式会社
- 株式会社野村生物科学研究所
- ハウス食品工業株式会社
- 長谷川香料株式会社
ファイザー株式会社
豊年製油株式会社
- 株式会社ボゾリサーチセンター
北海道糖業株式会社
- 三菱商事株式会社
明治製菓株式会社
明治乳業株式会社
- 山之内製薬株式会社
雪印乳業株式会社
理研ビタミン株式会社
- ライオン株式会社
株式会社ロッテ

○印：日本国際生命科学協会会員
を兼ねる

委 員 名 簿

委員長	小原哲二郎	東京教育大学名誉教授・東京農業大学客員教授
副委員長	椎名格	日本コカ・コーラ株式会社 取締役業務執行副社長
"	角田俊直	味の素株式会社 取締役
"	吉田文彦	キッコーマン株式会社 常務取締役研究開発本部長
監事	印藤元一	高砂香料工業株式会社 常務取締役
"	土屋文安	明治乳業株式会社 中央研究所長
委員	青木真一郎	日本シー・ピー・シー株式会社 取締役
"	秋山孝	長谷川香料株式会社 理事
"	荒尾修	協和醸酵工業株式会社 常務取締役
"	伊藤克	株式会社ニチレイ 取締役東京研究所長
"	井上喬	キリンビール株式会社 麦酒科学研究所所長
"	落合董	昭和産業株式会社 製油技師長
"	小畑繁雄	三栄化学工業株式会社 専務取締役
"	金崎清彦	クノール食品株式会社 取締役研究部長
"	貴島静正	エーザイ株式会社 理事研究三部長
"	向後新四郎	白鳥製薬株式会社 常務取締役千葉工場長
"	小鹿三男	日本コカ・コーラ株式会社 学術研究本部長
"	小西博俊	北海道糖業株式会社 相談役
"	菰田衛	豊年製油株式会社 開発部次長
"	斎藤浩	ハウス食品工業株式会社 海外業務室長
"	笹山堅	ファイザー株式会社 社長
"	神伸明	日本ケロッグ株式会社 代表取締役社長
"	菅原利昇	ライオン株式会社 食品開発研究室長
"	十河幸夫	雪印乳業株式会社 取締役技術研究所長
"	曾根博	理研ビタミン株式会社 代表取締役社長
"	田口和義	三菱商事株式会社 食料開発室商品開発チームリーダー
"	出井皓	日本ペプシコ株式会社 技術部長
"	手塚七五郎	株式会社ロッテ 中央研究本部取締役第1研究所長
"	中島宣郎	武田薬品工業株式会社 食品研究所長
"	仲吉洋	株式会社野村生物科学研究所 取締役研究部長

委	員	新	村	正	純	味の素ゼネラルフーズ株式会社 研究部長
	"	西	村		博	山之内製薬株式会社 研開計画部長
	"	萩	原	耕	作	仙波糖化工業株式会社 専務取締役
	"	橋	本	浩	明	サンスター株式会社 顧問
	"	服	部	達	彦	南海果工株式会社 代表取締役
	"	早	川		潤	株式会社ボゾリサーチセンター 運営管理部次長
	"	日	高	秀	昌	明治製菓株式会社 生物科学研究所長
	"	平	原	恒	男	カルピス食品工業株式会社 研究開発センター所長
	"	藤	井	高	任	日本ロッシュ株式会社 化学品開発部長代行
	"	渡	辺		寿	日清製油株式会社 研究所課長

ワーキング・グループ名簿

◎ リーダー, ○ サブリーダー

「食品添加物摂取量調査」

- | | |
|--------------------|----------------|
| ◎ 桐 村 二 郎 | 味の素株式会社 |
| 青 木 真一郎 | 日本シー・ピー・シー株式会社 |
| 井 上 勝 文 | 日本コカ・コーラ株式会社 |
| 川 崎 通 昭 | 高砂香料工業株式会社 |
| 松 本 孝 雄 | 味の素株式会社 |
| 森 本 圭 一
(吉田 徳夫) | 麒麟麦酒株式会社 |

「骨代謝とミネラル」

- | | |
|-----------|--------------|
| ◎ 福 富 文 武 | 日本コカ・コーラ株式会社 |
| 小 山 洋之助 | カルピス食品工業株式会社 |
| 阿 彦 健 吉 | 雪印乳業株式会社 |
| 工 位 礼 一 | 日本ペプシコ飲料株式会社 |
| 川 野 好 也 | 日本コカ・コーラ株式会社 |

「食 塩」

- | | |
|-----------|------------------------|
| ◎ 杉 山 晋 一 | キッコーマン株式会社 (第1回目～第4回目) |
| ◎ 那須野 精 一 | キッコーマン株式会社 (第5回目以降) |
| 宇 野 哲 夫 | 協和醸酵工業株式会社 |
| 大 下 克 典 | キッコーマン株式会社 |
| 齋 藤 浩 | ハウス食品工業株式会社 |
| 榎 原 庄 二 | 日本冷蔵株式会社 |

「砂 糖」

◎小	西	博	俊	北海道糖業株式会社
	土	屋	文安	明治乳業株式会社
	水	内	武男	日本コカ・コーラ株式会社
	川	野	好也	日本コカ・コーラ株式会社
	飯	山	稜蔵	カルピス食品工業株式会社
	堀	江	章	明治製菓株式会社
	鈴	木	真次	株式会社ロッテ
	清	水	淳一	北海道糖業株式会社

常任アドバイザー

	鴨	田	稔	精糖工業会
同 上	鈴	木	幸枝	精糖工業会

「栄 養」

◎近	藤	敏	雪印乳業株式会社
○川	野	好也	日本コカ・コーラ株式会社
	小	森昌樹	キリンビール株式会社
○浜	野	弘昭	ファイザー株式会社
	大	塚隆一	明治製菓株式会社
	宮	沢久七	明治乳業株式会社
	伊	藤猪一	クノール食品株式会社
	鈴	木謙夫	カルピス食品工業株式会社
	藤	井高任	日本ロシュ株式会社

「健康」

- | | |
|----------|--------------|
| ○和 仁 皓 明 | 雪印乳業株式会社 |
| 太 田 賛 行 | 雪印乳業株式会社 |
| 藤 木 博 明 | 明治製菓株式会社 |
| 向 後 新四郎 | 白鳥製薬株式会社 |
| 関 徹 夫 | 日本コカ・コーラ株式会社 |
| ○斎 藤 浩 | ハウス食品工業株式会社 |
| 井 上 孝 夫 | 理研ビタミン株式会社 |
| 佐 藤 博 | 株式会社ニチレイ |
| ◎土 屋 文 安 | 明治乳業株式会社 |
| 小 西 博 俊 | 北海道糖業株式会社 |

「食品の安全性」

- | | |
|----------|----------------|
| ○青 木 幹 夫 | 味の素株式会社 |
| ◎青 木 真一郎 | 日本シー・ピー・シー株式会社 |
| 秋 山 孝 | 長谷川香料株式会社 |
| 浅 井 良 輝 | 雪印乳業株式会社 |
| 大 橋 治 陸 | 株式会社野村生物科学研究所 |
| 川 崎 通 昭 | 高砂香料工業株式会社 |
| 北 村 利 雄 | 協和醸酵工業株式会社 |
| 佐 藤 吉 永 | 株式会社ロッテ |
| 園 部 広 美 | キリンビール株式会社 |
| ○那須野 精 一 | キッコーマン株式会社 |
| 藤 波 博 明 | 日本コカ・コーラ株式会社 |

「食用油脂の栄養と安全性」

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|--------------|
| ◎ | 倉 | 重 | 満 | 雄 | 味の素株式会社 |
| | 落 | 合 | | 董 | 昭和産業株式会社 |
| | 渡 | 辺 | | 寿 | 日清製油株式会社 |
| | 齋 | 藤 | | 浩 | ハウス食品工業株式会社 |
| ○ | 菰 | 田 | | 衛 | 豊年製油株式会社 |
| | 高 | 橋 | | 強 | 明治乳業株式会社 |
| ○ | 八 | 尋 | | 政 | 雪印乳業株式会社 |
| 世話人 | 麓 | | | 大 | 財団法人日本油脂検査協会 |
| | | | | 三 | |

本会誌名「食品とライフサイエンス」は昭和60年7月29日に
商標登録がされています。

食品とライフサイエンス

No. 16

昭和61年9月15日 印刷発行

I L S I 活 動 委 員 会
(前 ILSI等活動検討委員会)

委員長 小 原 哲二郎

〒105 東京都港区虎ノ門二丁目3番22号
財団法人 食品産業センター気付